

平成 28 年度第 1 回 帯広市行財政改革推進市民委員会 議事要旨

日時：平成 28 年 9 月 5 日（月）午後 6 時 30 分～午後 8 時 15 分

場所：帯広市役所 10 階 第 5B 会議室

■ 出席委員

梅田委員、大野委員、仙北谷委員、竹鼻委員、田中委員、坪委員、本田委員

■ 事務局

総務部行政推進室（中野室長、廣瀬企画監、桃井主幹、中橋副主幹、藤内主任）

■ 次第

1 開会

2 議事

（1）帯広市行財政運営ビジョン平成 27 年度実施計画の推進状況について（協議）

3 閉会

■ 議事要旨

1 開会

【事務局】本日は、委員 10 名中、7 名の委員が出席し、過半数に達しているので、帯広市行財政改革推進市民委員会設置要綱第 7 条第 2 項により、会議が成立していることを報告する。

次に、本日の会議資料について、平成 27 年度実施計画推進状況報告書案を事前にお届けしている。ご確認願いたい。

これより、議事進行は、委員長にお願いする。

2 議事

（1）帯広市行財政運営ビジョン平成 27 年度実施計画の推進状況について（協議）

【委員長】今日は、市から「帯広市行財政運営ビジョン平成 27 年度実施計画の推進状況について」について説明を受け、協議をしたい。まず、「（1）帯広市行財政運営ビジョン平成 27 年度実施計画の推進状況について」を議題とする。はじめに、行財政運営ビジョン実施計画の検証方法や、この会議での協議の進め方などについて、事務局から説明願う。

（事務局から、資料 1 により、検証方法や協議の進め方について説明）

【委員長】ただいまの説明について、ご質問やご意見等があればいただきたい。

（質問、意見等なし）

【委員長】なければ、市がまとめた平成 27 年度実施計画の推進状況や検証結果について、説明を受け、各委員から、ご意見をいただきたい。事務局から説明願う。

（事務局から、報告書案により、H27 実施計画の推進状況・検証結果について説明）

【委員長】ただいまの説明について、ご質問やご意見等があればいただきたい。

【委員】市に対する考え方を述べたい。ご存知の通り、十勝では台風の影響によりこれまでに無い被害を受けた。私は、帯広市が管内町村に声をかけて包括的な災害対策本部を設置するべきだったと思っている。大きな被害を受けた町村に対して、市が中心となって関係機関に呼びかけ協力して支援してほしい。防災や災害の話題は、行財政運営ビジョンからは離れるかもしれないが、市がなぜ職員の派遣、物資の提供など手助けをすることができなかったのか残念でならない。

【委員長】今お話しいただいたことは、31の実施項目中、「21 十勝圏における広域連携の推進」に該当すると考える。災害発生時における広域連携について、市として考えは持っているか。

【事務局】先日の台風により帯広市でも様々な被害を受けている。災害が今まさに襲ってきているという状況では、各自治体は、まず自分のエリアを守ることを最優先に考える。自治体をまたぐような広域的な対応については、十勝総合振興局や帯広開発建設部などが行うものとする。ある程度落ち着いた時点で、近隣町村への支援を検討することになるが、基本的には被災町村からの要請があり、それに市が応じるという流れとなる。ただ、そのような要請を受ける前から積極的に支援に取り組むべきという趣旨のご意見だと思うので、防災担当にお伝えする。

【委員】安心・安全なまちづくりに取り組んでほしい。今回の被害は、ビジネス・観光・物流に大きく影響している。先日行われた「とかちマルシェ」も例年に比べ来場者が少なかったように感じた。何か行動を起こしてはどうかと思ったところ。

【委員】十勝管内の町村とは、災害発生時の防災協定は締結しているのか。

【事務局】十勝管内の市町村間で相互応援体制を構築している。

【委員】帯広市民でない人が、帯広市内の避難所を使用することは可能なのか。

【事務局】たまたま帯広市内にいて自分の市町村に帰ることができなければ、帯広市の避難所を使用することはあり得ると思う。

【委員】障害者が避難する際には、一度指定避難所に行ってから福祉避難所に向かうことになっていると思う。その方法が本当に有効なのか考えなければならない。例えば、肢体不自由な方が電動機具を使って一旦指定避難所に行き、それから福祉避難所に連れて行くことになる。長距離の移動が命にかかわる可能性もある。本当に障害を有する人のバックアップになっているかどうか再度検討してほしい。

【委員】今回、私が暮らす地域が避難勧告の対象区域となった。緊急のエリアメールは、避難指示が出た2時間後くらいに届いた。私は、SNSやインターネットで情報収集しており、エリアメールが届く前に、市のフェイスブックでは既に情報発信していた。テレビでは、自分が住んでいる地域のピンポイントの情報を知ることができず、ラジオでもよくわからなかった。また、私の避難所は、市役所から総合体育館に変更されたが、川のそばの施設に行く気にはなれなかった。より近い施設に避難できるようにという対応は良いと思うが、本来指定されている避難所である市役所が使えなかったのはどうかと思う。ネットで避難所の変更を確認できた私は良

かったが、広報車のアナウンスでは、避難する場所については知らせていなかったのではないかと。聞こえなかっただけかもしれないが。そうすると、ハザードマップで自分の避難所が市役所だと認識している人は、市役所に向かっていく。インターネットなどを使えない情報弱者にどのように情報を伝えるかを考えることが大事だと考える。

【委員長】情報弱者とそうでない人に対する情報発信などの行政サービスに差が生じてはいけない。情報弱者にどのように対応するかが重要になる。

【委員】感心したことだが、今回の台風災害にあたり、市の障害福祉課が障害者全員に対して安否確認を行っていた。大変心強いと感じた。

【事務局】災害発生時には、情報弱者への対応が特に大事であると考えている。また、広報車が避難場所をお知らせしていなかったのであれば、それは問題だと考えるので、防災担当にその旨伝える。

【委員】災害対策を広域で連携して行うべきという意見は、その通りだと思う。ただ、現時点で何をどのように対処しなければならないかということを策定する段階には至っていないと考えている。私の住んでいる地域でも、広報車によるアナウンスが継続的に行われていたが、音が小さくて聴き取れなかった。夜中の2時だとサイレンを鳴らしたりしない限り聞こえないのではないかと。

私は、町内会の班長を務めているが、夜中に町内会長から電話があり、町内会の班員に連絡してほしいとの指示があった。班員に電話連絡した後、各戸をまわってチャイムを鳴らしていったが、ほとんど起きていなかった。こういう情報伝達は、町内会の仕事なのか。これから検討してほしい。

避難所に関しても、私の指定避難所は、川のすぐそばだった。今にも溢れそうな川の方に避難するわけがない。そもそも町内会に加入していない人には広報紙を配布していないので、自分がどこに逃げればよいかわからないのではないかと。今回の災害を何十年に一度のことと捉えず、次にこのような事態になった時のために、教訓として様々な検討を行った方がよい。

【事務局】これまで地震被害を想定した準備は進めてきたが、水害対策は弱かったと感じている。これから検討が必要だと考えている。

【委員長】現在、復旧に向けた対応の最中だと思うので、ひと段落したら今回の件を検証し、今後の対応に活かしてほしい。その他の項目についてはどうか。

【委員】まちづくりには健康と教育という視点が大事だと思う。私が主婦の方からよく聞くのは、児童の医療費負担、給食費負担を軽減できないかということ。他市町村でも負担軽減事例があるので検討してほしい。また、学力向上対策として放課後の補習を実施してはどうか。塾に行かせていることが多いと思うが、もう少し教育の場の充実を考えてほしい。校長、教頭、教員OBなど教えられる人材はたくさんいる。道内自治体では、子どもサロンなどの児童活動を実施しているところがある。子どもが集える場所を行政として検討してはどうか。釧路市にはこども遊学館という素晴らしい施設がある。このビジョンにも良いことは書いてあるが、もっと具体的に取り組んでほしい。

【委員長】ホコテンに来ている子供連れの母親に聞くと、子どもを安心して遊ばせる場所がないと言っていた。

【 委 員 】 空き家を利用するなどの方法を検討してもよいのではないか。

【 委 員 長 】 報告書の取り組み結果で、進捗は「○」となっても、成果目標が「未達成」となっている項目は、取り組み方法を見直す必要があるのではないか。今後の対応として、今までと違うやり方を考えなければならないと思う。

【 委 員 】 項目 7 「効果的な予算の編成」について、色々な手順を踏んで予算編成していると思うが、市民の生活に直結する予算の編成過程を市民に公開することはできないのか。

【 委 員 】 どのように要求して、どのような過程で削減されていくのかは関心があり、よい意見だと思う。

【 委 員 長 】 国だと各省庁が要求した額が示されることがあると思うが、市はそのようなことは行っているのか。

【 事 務 局 】 担当課からの予算要求額は公開していない。最終的な編成結果をお知らせしている。

【 委 員 長 】 市民が関心のある目玉となるような施策を 1、2 個選んで、その予算編成過程を公開することを検討してもよいのではないか。

【 委 員 】 今は、市が政策的な判断で使える予算が限られている。やりたいことが出来ない状況にもある。一番のネックは、介護保険料だと個人的には捉えている。
また、今回の台風による災害を教訓としてこれからの防災対策に活かしてほしい。

【 委 員 長 】 今後の行政を進めていくにあたっては、長期的な視点で考えてほしい。消防広域化でもそうだが、今短期的に経費がかかっても、将来的には負担が軽減すると判断して積極的に取り組んでほしい。
その他に、意見はあるか。

【 委 員 】 事務処理の誤りについて、職員数が足りないことで職員 1 人にかかる負担が増し、ミスにつながっているのではないか。

【 事 務 局 】 職員の残業は若干増加傾向にある。仕事量をはかることは難しいが、職員の負担は増えていると認識している。事務処理ミスの発生については、専門的知識の不足やチェック体制の不備など多様な要因によると考えている。

【 委 員 】 帯広市には住みやすい街を目指してほしい。そして、帯広市の魅力を大きくして、マスコミを活用しながら情報発信し、知名度をもっと向上させてほしい。観光のビジョンを持つべき。

【 委 員 】 まちづくりに関して言えば、行政が街中に核をつくることで人が集まってくる。ホコテンや高齢者バス券など、行政がインパクトを与えることで市民がついてくる。

【 委 員 長 】 中心部も変化していく。長期的な視点を持ってまちづくりに取り組んでほしい。他になければ、本日の委員会は終了する。

(午後 8 時 15 分終了)